

天保新政錄

二

自天保十三年六月
至同年十月



史

庫	文	閣	內
一	三		
五	五		
函	五		
二	八		
一	八		
架	號		
	四		
	冊		

內閣文庫	
番號	和 35588
冊數	4(2)
函號	150 151





天保新政録卷之二

目録

- 一 古今和引習之事
- 二 馬嶋弓常買之事
- 三 新板書物之事
- 四 御尊御多之事
- 五 錦絵風俗、抱、山、御制禁之事
- 六 堺所蒔屋所地之精所、移地系芝居
- 七 所同難役所修法之事

八 百姓所入者皆之系於用之官發事

九 一海上為也難破取之岸換者之事

十一 出家社人所方修居所五年正外所修事

事

十一 所役人之家或之修之者之事

十二 丁銀之取之包發官查事

十三 似也者取錢換之者之事

十四 捕所國役錢之事

十五 三芝居得者其取之門所孫之修換事

十六 奇新妓得者之部之外孫孫不取事

十七 新祝禱人宿取如之者之事

十八 新板書之日醫書之事

十九 地代所管定所定以新之見所訂下事

二十 石燈親手水新臨取庭石之事

廿一 居玉形修事之岸白江方之事

廿二 所用書物土物水為子乾物取銅方之事

廿三 所用玉子銅方之事

廿四 脚地浮芥液清厚人之事

廿五 古金銀通用所停止每引取方之事

廿六 錢取捕所定之事

廿七 屋敷之月何人等少貸少貸以制禁之申

廿八 拜所地所借地寛政度以爲見合引下ケテ

申

廿九 祝元之申引所山限旁如之申

三十 加得方所租之元定何人共得否の爲不致

申

三十一 兩所借所所地所地代店借引下ケ之申

三十二 爲士山並大山多借所川入口上修之申

三十三 福得方市中修居不致成之申

三十四 務若河一十構内抱人足木之申

三十五 百姓借方并化有之人勤尚久難借外申

三十六 業種同方所借掛之申

三十七 於解種人爲所拂之申

三十八 家借寄合引並之并家借付法政の申

三十九 新板書爲之月活字板之申

四十 世之季租借傍利足之申

四十一 所借端之建所之土爲物至納屋不之申

四十二 寛政曆改曆之申

四十三 商人共并此之用の中月資申

四十四 爲國形借未并浦之建札之申

四十五 古名館引好之義并七里以上所子尚之也

四十六 曆板好之儀抄之也 此作付之事

四十七 者市場之石是之抄好之極乃也

四十八 糸糸結好之儀并好作好之事

四十九 坊末髪結好之儀并好作好之事

五十 醫學館之儀并好下之事

五十一 他玉之取引之事 此新也金之事

五十二 諸國之年貢米石代令抄好之事

五十三 為春之月自身番出之方之事

五十四 諸國産物賣買忽弊改革之事

五十五 國之におおし諸前物而後之 此乃也

五十六 女之衣類再出解之事

五十七 所人男女衣服之事

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns]

一 天保十三年六月朔日南御書所より作候

市中取錦柳

第五号

市中古金銀所候者此に負取書出り候者
引取らる中候以上古金銀具出しけれり
申取引りし者古金銀具取分存取らる
以來別紙書出り候者申取引り通る候
并引取所へ候か引取らる候者取分
申取引り候者取分取らる候者取分
取らる候者取分取らる候者取分



三 曰の所弱

自今新板書物之字信書佛書神書區書新書都
之書物類定第一通之事を極別異教書說等を
所交へ修し出の時之風俗人之批判亦恐山類
好毛画本考略くため所用事

一人、象筋之祖之筆跡を彼是亦速く為其於他
之書物、書形し世上殊流布し多餘子所停止
事

一 何書、亦以新板之者似若新板元之實石真書
之為終て事

一 唯今道徳書物

檢現様所石出の義お除の爲に向後急務終る
流書物、口押立の爲に

所石書入不苦也

所石之上に義且所物語あり類をお除

所代の様所名流書物、出の義お除、極、おる終
了中旨高深度お弱むの學類る明白、押出し
世々中傳人、存居の爲に候也

所身之と所物語、之を凡向後お除のを不及也
但修さかたおむる類、唯今とて通るおる候也

所々外曆書天文書河榮院書藏秘澤物々勿海
 何々著述、少作抄る書物板行以、少作本座
 古今何年々能市書書方、了り出、同人、年行
 所、出、進、差、圖、之、及、抄、法、の、書、有、給、書、を、改、る
 年々、林、可、得、は、且、又、彫、刺、也、未、之、上、之、一、部、宛、年
 川、所、以、可、為、出、の、為、内、理、与、板、力、ホ、以、后、之、以、お、て、ハ
 何、書、物、々、而、得、板、木、燒、撰、抄、合、之、者、在、一、回、以、休
 之、上、者、重、之、給、了、り、付、也、
 右、之、通、河、中、不、淺、板、之、給、知、之、の、也、

六月

四 同々所給

所々解、解、方、女、小、田、島、河、之、了、目、仲、三、書、神、田
 解、為、座、書、傳、三、書、上、法、原、中、何、寬、政、七、卯、年、撰、書、也、
 燒、即、札、之、給、抄、之、人、是、出、關、八、州、内、与、解、為、之、端
 所、以、依、り、付、以、抄、之、給、抄、之、人、其、國、之、在、之、所、以、給、之、
 同、抄、崔、之、為、之、抄、為、人、方、之、為、中、之、所、為、之、鳥、類、之、
 洞、多、座、在、之、付、未、燒、即、札、未、得、書、得、多、座、其、之、
 抄、燒、即、札、之、同、為、之、寫、原、下、為、給、書、有、書、實、之、
 以、多、所、が、お、知、り、之、為、片、了、り、付、也、

一町に素の明地定記ある解居所の部内法
 お世より名通りしゆる名をゆいゆい解居所
 島さしゆりお世より名通りしゆり名をゆい
 山左側居所名ゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 付金ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 付ゆい
 一前にお解ゆいゆい解居所名ゆいゆいゆい
 事ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 名ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 七戸出ゆい

一邊有りしゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 中ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 散金ゆいゆい
 有し通所ゆいゆいゆいゆいゆい

宮六月

五同年六月信北師省所立作信

信双張掛

若 至 共

錦錦と信と信と信と信と信と信と信と信と信と信と

板柶、^御、^山、^民、^風、^俗、^抱、^山、^所、^身、^以、^木、^闌、^板
之、^勿、^論、^是、^迹、^仕、^入、^山、^山、^共、^出、^有、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢
外、^と、^身、^合、^卷、^と、^唱、^の、^鏡、^第、^御、^の、^形、^臨、^御、^不、^柶、^別、^入
鏡、^重、^之、^後、^身、^の、^似、^顔、^形、^之、^超、^向、^{あり}、^書、^強、^之、^上
若、^我、^上、^包、^{あり}、^形、^也、^を、^お、^用、^無、^益、^之、^等、^手、^殺、^ら、^然
言、^出、^之、^善、^也、^し、^の、^後、^め、^何、^之、^等、^身、^是、^又、^仕、^入、^山、^山、^山
其、^後、^の、^善、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢、^賢
と、^お、^止、^忠、^存、^身、^節、^{あり}、^元、^之、^し、^し、^兒、^女、^勤、^善、^し、^し
多、^免、^し、^お、^求、^し、^和、^書、^強、^修、^柳、^除、^之、^之、^從、^者、^略
し、^し、^二、^用、^之、^手、^殺、^石、^お、^掛、^拍、^為、^方、^お、^改、^在、^若、^紙

上包、^{あり}、^形、^也、^お、^用、^し、^多、^し、^體、^上、^形、^也、^お、^用、^し、^花、^形
板、^出、^木、^之、^節、^の、^所、^斗、^寄、^版、^市、^古、^馬、^方、^と、^出、^改、^度
可、^申

六月廿六日、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山、^山

堀阿

地、^左、^那、^助

和、^格、^之、^人

善、^所

日、^在、^多、^樹

善、^官

和指及人

如河州府署下地

日情云情

如少人

新林本河之月

日情云情

如少人

其方在所林地面引地亦似付候多山之宿所
裏通不精前河与元標之坡坪至原却地云云
一家仲并土苑不燒強之分其未之山由商新下小

男難有下好水刻名却地清方之高之過言下及
沙法以子高之而之地之在地位多原林之云
下以事之山男之其方之好

堺河地至之月

次云情

中川情之店助

中川情之新云情

高原河地至之月

原次那

久次那

三井沼即古也

石上橋 安部

此方其所按地有田畝引地系引料以手高以下
是也其居標序倍動之元坪地標為河古
地標之原云云

標所

石上橋 安部

田所

石上橋 安部

菅屋所

石上橋 安部

田所

標所

石上橋 安部

此方其按今般標為河之其居標所倍動之元坪地
標為河古地標之原云云

此方其按今般標為河之其居標所倍動之元坪地
標為河古地標之原云云

元世徳山平之跡能元十地所由縁芝居身内
其支地之始

七月廿六日有南所番所之作修

法也御

世活御

初至若

此方問屋仲男組合所持止正作山山有種為也
市中備樓屋多並買以了山半之所備種去
用中之多分之入用言之付万一也持支之亦年

以之石水橋山男高公佐仕法之市中種屋
有五為高之門出者得所之並活去入在求山若
之付也字所之始也之山之也之也之也之也之也
種修也之也之也之也之也之也之也之也之也

八月廿六日有南所番所之作修

市中所締御

初至若

百姓所人其合銀之泉於用中其安以於速之也
所持以了居之分之也其泉也之也其泉也之也其泉也之也



初平年去の年お節の世は錦より其
邦令邦令の所採りてのよあふしりお守不
城の中しお守移し風作を其新集しお守採
りてお守の世登し高き且て人の出入履安
世安の世散集を作出しお守の上を其採
て初平の世お守の年来お守の世お守の世
錦よりお守の世お守の世お守の世お守の世
りお守の世お守の世お守の世お守の世
方お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世

方お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世

九月廿六日

所当地高人其上方表の務取しお守の世
上新破の世お守の世お守の世お守の世
お守の世お守の世お守の世お守の世

七橋送、其月、其、山、分、を、是、又、所、商、地、引、合、也、
 商人、其、有、物、に、水、引、合、送、り、先、同、商、年、に、橋、未、船、
 形、お、對、り、去、り、常、樹、の、形、に、此、橋、を、橋、名、に、橋、且、難、
 船、之、形、今、切、り、境、而、地、を、改、め、是、先、に、通、り、
 居、室、の、形、は、昔、仕、入、り、又、水、油、所、中、に、是、所、者、
 地、諸、不、潤、枯、り、り、り、厚、少、然、り、中、に、是、所、又、木、
 等、等、り、り、り、不、拂、厚、し、越、り、心、車、後、引、上、常、貫、心、
 之、形、に、お、わ、り、り、り、吹、鳴、り、上、散、年、に、此、所、り、り、
 右、之、通、河、中、石、淺、水、早、に、り、り、り、り、
 寛、一、月、

十回年六月廿六日御前

出家社人、水、所、屋、後、見、之、家、り、竹、り、り、實、又、元、福、に、
 度、お、弱、り、趣、お、り、り、り、年、磨、お、り、り、り、有、不、其、孫、
 之、地、お、守、り、り、此、度、存、り、通、改、革、に、此、作、出、り、
 一、出家社人、山、伏、快、楽、神、祇、に、此、を、所、任、所、任、修、
 此、に、早、に、本、寺、切、社、に、同、宗、同、派、に、古、社、内、に、
 為、り、所、り、り、り、
 一、河、中、り、り、諸、山、家、に、信、深、説、り、其、年、用、り、り、事、
 一、河、中、り、り、念、佛、誦、經、目、滿、り、有、り、出、家、并、同、

おし過可云お福

六月

十一月廿六日廿七日所福

と来所より大附遊祇改録し名并重内段人共
外内段人蒙来仰、御お取成と押買代紙
ふお拂成と録し申す、いよあき、いよあき
併し名あし、いよ月省、いよ奉所、いよ連出、いよ先
年々度、いよお福、いよ所出、いよ名、いよ、いよ、いよ、
竟呂連出、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、

資と如く、存し、存し、存し、存し、存し、存し、
いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、
福、福、福、福、福、福、福、福、福、福、福、福、
いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、
早、早、早、早、早、早、早、早、早、早、早、早、
冥、冥、冥、冥、冥、冥、冥、冥、冥、冥、冥、冥、
いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、
いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、
いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、
いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、いよ、

寛六月

十二年七月朔日所稱

丁卯詔詔在帝是包い外に有給、帝方立り給
お守り給へ事、向後包い有給、大所存、右
方名方お記、給へ事、包い根、給へ事、此
後、一掛、改、名、立、り、包い、名、存、り、可、中、立
給、味、上、最、重、く、及、候、給、有、給、有、給、候、也
い、い、の、考、中、不、淺、給、有、事、候、也
有、い、包い、何、中、不、淺、給、有、事、候、也

寛六月

十三日所稱

似々今詔詔給、候、い、い、の、事、考、給、い、名、候、也
所、割、禁、を、外、有、羽、筋、を、考、中、い、名、候、い、い、の、事、候、也
候、味、上、最、重、く、及、候、給、有、給、有、給、候、也
と、敬、告、り、候、事、宗、誓、い、給、候、事、候、也、此、後、改
自、然、親、香、と、い、ふ、事、候、也、此、後、改、中、心、不、可、不、候
中、心、不、可、不、候、事、候、也、此、後、改、中、心、不、可、不、候
見、候、事、候、也、此、後、改、中、心、不、可、不、候

所之名は在飛科に在り

由之知所科は代官初時と記之地は浦方村

河内少海村に在り

北條所は掛至り

案六月

由之通可也

十四年七月朔日南河内所は作

梅所

名は
五郎

為三月朔日仲夏停止

分是出の國後縣に在り

丁目は之の所は

形は山七之部方

あり

十五年七月朔日北河内所は作

三芝居

後考

三芝居は在り

定礎又乃公文政十有年以朱波中流室の事
と本風候為公候旨之外加役するい物、唱
堀を望以文の流、病氣より之真の乃事
さ七の行年終堀屋にお候し居て堀長に
立石座取と留すとの人、有さるる御事候
中の長びき、有る身合と居る不願にお候し居、
長しと候お守り候、或は向後地所候居さ不
お成り第一、精進河、河、福盛申候事、
以事と居る大編室お申候事、人、之、更
以事と難お成り、且、孫重と居、度、此、名、一、十

斗、亦、有、事、限、此、余、之、後、居、在、古、者、一、作、事、別
官、之、如、之、候、所、候、人、中、有、度、元、合、之、中、流、と、連
骨、持、房、家、の、元、事、大、改、事、同、中、候、事、之、事、
之、卯、三、部、之、外、遠、國、城、中、立、河、お、十、居、堀、が、云
以、一、の、事、と、有、お、事、候、事、候、事、一、作、事、別、
之、事、と、有、湯、治、神、佛、多、修、修、事、候、事、候、他、事
十、年、の、以、事、と、有、事、候、事、候、事、一、作、事、別、
堀、お、事、以、て、事、候、事、候、事、一、作、事、別、
事、
山

相言社

元 著

三芝原程之法加詳方之海生寬政五年規
定神文指出文政中亦年以本原の中後司の
道にお池所務被得る事十額年亦加役と
折之備増屋お水書お芝原上り書下給屋書
多し奥月為事にお水書お早意給屋書
所心お水書お水書お水書お水書お水書
以得而得る法能是書書書書書書書書書
廟し一書の給屋書書書書書書書書書書書
主名所給屋書書書書書書書書書書書書

命し若れ右之准一割命お後以給屋増屋お
給屋書書書書書書書書書書書書書書書書
一十年限代にお抱一ノ所の所行お中給屋書
命抱入の書書書書書書書書書書書書書書
鋪お代お引上書書書書書書書書書書書書
書書書書書書書書書書書書書書書書書書
但給屋書書書書書書書書書書書書書書書
書書書書書書書書書書書書書書書書書書
お水書書書書書書書書書書書書書書書書



行色遙、見合地代、極石水南、之東上陸、乃發
以早竟、清所覽、乃以、以、地代、所便、あり
掃、在、年、之、承、久、連、綿、と、又、石、方、新、出、來、に、是、所
心、均、連、之、年、年、之、始、可、跡

芝居付

榮屋付

穠翁河地所、元地、地、位、在、お、若、に、家、有、地、代
之、家、宗、考、地、位、見、合、り、お、若、に、也、上、に、跡、多、發
与、地、之、在、十、中、倍、以、之、に、方、在、家、在、是、之、か、之、位
后、在、以、之、あ、く、相、立、座、所、綿、綿、と、發、在、お、之、に

乃、舟、内、石、有、深、綿、綿、と、物、之、後、世、向、家、有、之
お、屋、倉、物、科、理、不、言、也、に、亦、不、若、お、極、秀、代、者
お、代、者、古、来、に、也、お、改、見、お、人、お、入、所、に、極、石、掛
左、の、位、自、由、に、場、所、覽、昌、に、一、極、世、承、綿、綿、と
跡、綿、綿、と、行、り、跡、綿、綿、と、極、石、且、得、石、其、と、尺、物
人、に、引、合、或、は、海、案、に、お、手、に、是、出、し、度、お、若、に
お、わ、て、も、明、味、に、之、案、屋、高、賣、お、止、綿、綿、と
皆、り、白、の、官、兼、り、之、官、可、存

智所

石屋付

了知りの也

七月

布し趣可しお願

十七日 南所書局 作修

南北小口斗書

石三共

今般仲官組合お停止は作せし旨 旅人宿場世
に寄 義揚子 巧舟新規お好り者 下あり 智と市
寺社子 河江勘定 子河 十 銘所 所修人 石三 共

此後届出の紙 下持の尤も所後所 十 石三 共
概可辨也

十八日 七月 南所

新板書物 一冊 作 去月 中 お願 月 務書 之 分
去 蔵 梅 子 了 下 好 心 寄 之 介 展 医 学 館 之 系 稿
若 出 行 差 局 彫 刻 出 来 之 上 一 部 先 回 所 十 石 三
細 一 万 一 新 刊 板 子 一 一 字 集 子 一 志 者 下 之 所 出
括 出 行 差 局 彫 刻 出 来 之 上 一 部 先 回 所 十 石 三
若 出 行 差 局 彫 刻 出 来 之 上 一 部 先 回 所 十 石 三

市方町方、中出可紀左國山
如之類所申市代格可紀知との也

七月

九月年七月八日南所番所は作也

地

家

者

市中地代店格上り言々民有るを寛政五年所
之市町、公書上取極意之、以て承取居押移

以て地い土地、堅着る者高下を以て市中
一形、市中、上り下り、中を以て、至りて、承取居

格別、引上り、承取居、承取居、承取居、承取居、承取居

一已、利潤を以て、承取居、承取居、承取居、承取居、承取居

以て、市中、承取居、承取居、承取居、承取居、承取居

以て、市中、承取居、承取居、承取居、承取居、承取居

以て、市中、承取居、承取居、承取居、承取居、承取居

石於新水新踏成庭石亦無益人力費用之
 掛造如し中々甚大者有之費此し以氣を以て外
 へ水舟の自今石燈籠之類を令造るべき事
 一 凡一切造り出し費を御用金より取立候
 石亦是又持取らるる所費皆一切取立候事
 一 湖戸物類と云ふ新造を競い製造せしめ
 石燈籠之類或ハ井桁亦湖戸物所造り品を
 心算費皆令停止し外木所造り類通例に
 無拘りし縁を令停造り候事
 一 凡一切造り出し費を御用金より取立候事

信會

一 高直之新植之類費令停止し候事
 一 湖戸物類と云ふ新造を競い製造せしめ
 石燈籠之類或ハ井桁亦湖戸物所造り品を
 心算費皆令停止し外木所造り類通例に
 無拘りし縁を令停造り候事

七月
 有之通所件而候候事御知事也

其一年七月廿日御觸
 若國形後末之節を二念お拂下り文政八年
 正月御觸候事
 一 湖戸物類と云ふ新造を競い製造せしめ
 石燈籠之類或ハ井桁亦湖戸物所造り品を
 心算費皆令停止し外木所造り類通例に
 無拘りし縁を令停造り候事

参上

所仁政を施すは難也

思召のい如く有るは外國に者多き也難風操
流布する所相新水を乞ひては所流末の其事
情にお分の一國に打拂ひを茶國に對し所
求至其不致 思召の條に文化に斗異國形
所末に所所斗方の氣分致 作出の如くお流
ひ所流何出の各異國形と見交ひては極子
お礼倉科新水も之を帰帆難成致はるは
おお應のよへ帰帆の條の中論尤上陸を為致
召致の條に通致 作出の條も極子防禦に

作
集

手為ゆりては、所至宜るは所連又を極、異玉
人、親のい義等も極子安んずる自警備向に
是も所流者宜、い一人殺致意手為あり是を
是とて一浪の厚柳多るは地、無く指おるは事
前若く是の極子極子と伺ひては所所人心に
動致を流のい、お流、極子と打掛の如く是を
能斗流、是も、事、動搖を極子極子、事、實
能、お流

佛情極、所至竟者、い極子極子、い、是、流
方分、流、極子、極子、い、是、流、極子、い、是、流、極子

卷
史
官

所及實儀のりて連て可辨臨楯に所并七句漏
うりて備向手高き多々行出てお進み河原に
ふりてふた文化之年お初ッ趣書為す
ツ解ぬ向河原おまじ

七月

おる自下にお初

文化之當年お初ッ趣

之進みかろし如那長治ハ海来つて通高わい
系お初ッ河原難を申節有は方中豫之年と
一氣ハ信牌義取上ハ以来高治る方と河原

帰帆波砂の山に舟再渡を以てる方ハ河原は清万一

帰帆と車寄宗極何とて浦方ハ船を繋り多分

よのよ年ハ山有是玉船と見交つてありて手高

いハ人数ハ持帆之見分ハ若持船寫ハ船子お

紀洋ありし如船ハ舟の速お初ッ河原ハ中豫

成丈船像ハ帰帆ハつッ船ハつ所并ツ尤寄ハ難

向ハ船像航ハつッ船子ハる信相水新ハ之為

有ハ帰帆難お本河原ハつッお初ッ之系おあハ

つ所并帰帆ハ何れお初ッ有は方中豫之年と

お初ッ帆ハつッ若船河原見ぬおまじお初ッ

其後昇、下、有、任、近、以、松、再、應、中、瑞、以、名、在、拒
 帰、帆、可、終、及、皇、使、以、て、所、定、之、意、し、及、何、亦、拂、去、る
 下、中、少、以、也、所、之、好、者、之、事、以、節、之、統、申、宣、政、之
 亦、平、是、皇、形、之、事、有、亦、弱、以、強、之、誰、之、所、斗、可
 中、之、極、万、石、以、之、有、之、兼、生、以、下、其、極、也、所、分
 知、力、所、也、之、向、之、亦、漫、治、之、亦、弱、以、強、之、誰、之、所、斗、可
 正、月
 中、之、通、所、書、付、出、の、旨、所、申、之、漫、治、之、亦、弱、以、強、之、誰、之、所、斗、可

廿二月十日午南所為殿正作後

苗納人抄信人惣代

神田多河抄子目

易之孫云周

蓮根納人抄信人惣代

同所

日 店云周

急此納人抄信人惣代
長年納人九人惣代

連雀所

日 易助

唐唐羊納人工括少入熱代
移回久右大町望月島化

傳三子名 文云 備

辛子納人熱代

相田町

居古乃 居古乃 居古乃

乾物納人熱代

堀内町 寺子目

家持 重云 備

水菓子納人熱代

須田町 寺子目

月 小入市

南北小口年暮

名三共

今般問在組合仲男停止正作也右有青物土物
其外水菓子乾物類所用不此物所細方之候
元問屋共お銀の候也 山方々素人並引交い
うの者多く此等支う物類斗の存以年存方々素
人並引交いしして青物候所小造り所若右と向
所用不此細の物斗持此之候所用し此等之候
時之候山内所乃うあ年此等と不引法賣別

此者方々所務所及此之より考へ所用之
見極く是者物極所々お知り極く極く所務
之より考へるは物極所々極心極く可極
但此者方々極く一同番外不毛之考へ及
此より考へ極く之より考へる極く極心
極心極く之より考へる極く極心極く

廿三日の同所番所より作極

在船所

所用玉子純人純人純人

武助名次云(周)

室所抄了目

及之形極
極

南北小口平番

若之共

此者方々見と所用玉子純方以て未の考へ極
問極細名仲名極止正作極所存玉子之考へ在
方々直引更以て之考へ多々考へる考へる
更以て之考へ極考へ極所々極所所用極極
細心極考へ極考へ極所用極考へ極極極

修
官

死に石居邦山所入る本年の事、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

廿四日 年七月 西、南所 當所 亦 作 存

新 而 初 所 何 丁 月

介
三
會

宗之 勢 方 同 居
月 八 又

勤 云 周

あ 針 所

半 云 周

以 名 其 弟 師 海 際 芥 渡 交 有 人 水 居 八 人 有 記 居 人
余 々 師 海 内 之 居 世 之 記 之 用 之 事 之 想 竹 之
若 由 来 之 事 於 之 問 屋 銀 居 仲 乃 停 止 之 作 也 以
之 行 之 事 以 弟 人 數 有 無 定 記 之 事 之 子 弟 亦
加 入 之 事 是 之 道 師 海 内 芥 渡 之 事 可 終
也 之 事 也 作 存 是 也 芥 渡 有 人 共 十 年 之 可 中

修 也 官

西宮五作後子長の傍の河の畔

日平八月三日所納

又政成以來今報出立し我作付り承高の保字
今報を分報 抄第令ありは世と通角云成動の
書に印を又改めし文字今報首字抄分利 抄未
報を承報ホ此を而強通角停止云作心以角
之をホハ凡古令報是と停止之承是所持以
以者も多女た有作り有報と今書付之承
之承出心報分引報し報お報の承今引引

作
會

所り少くも早竟令報持園の解力あり者も在
置る存心方と察と云り 限し新の承ら分人情
おのそ之御事多事之の承心以通云今報と
世と通角云心察と云り 申承取位何程互令報
うり其既之傳也い上を持園の者一己之察と
いりい心と云る世上一回之察と云る承心
公儀所創作世と云察と云る承心一己之私心察
と云り 持園の限し察と云る承心以通云承心
ラ皆罪科多怪等と云り 世と云る承心以通云
承心出下之痛お承心以通云承心以通云

彦
史
官

連年紙お綿中出する諸君也殿十段お答キ下、
難年以て以上問産紙下停止候事お綿不月
有所より所一紙紙お區、お成り紙お綿中
以来令其多存紙お留り又紙、勝る以上清灰
買ふ且仙臺角紙石巻紙此外他至る紙お扱し
以来一切下為至用い紙お留り候様候事お答
取上敷重之紙下付候

おと包紙お綿中出する以上、此上諸君也殿
門下ヶ寄書候様世以て紙お留り候事、厚
世活下紙、此上、御紙書多聞、お答候事

此上ハ、此高人、此上、お答候事、
此上、此高人、此上、お答候事、
此上、此高人、此上、お答候事、

皇八月

廿七同年八月十日所納

屋敷より所人、此上、お答候事、
此上、此高人、此上、お答候事、
此上、此高人、此上、お答候事、

於北面より大勿福長屋と云ふ所人お小袋室の極
お少の洋書と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極

お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極
お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極
お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極
お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極
お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極

於て下言及の元以本方本月中と、お少の極と云ふ
可お政の旨と云ふ極
お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極

八月

お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極
お少の極と云ふ極お少の極連を指す所の元書
可お政の旨と云ふ極

廿八月廿日南所書所云 作極

おの河原を辨借地

也

家名

石名

市中地代店借上り高き安政政所との書上る
 川原を以ての事と申磨おまじの地土池に蓮葉
 多し高下りありの事と申一筋と申細柄外に引上
 り地代店借上り高き安政政所との書上る
 此来り凡俗の事と申通しと申おまじの事
 是れ高き今家次り高き河原減女り高き
 所高き高き地代店借上り高き安政政所との書上る

古書との所持しと申高き一河原石名
 地代店借上り高き安政政所との書上る
 所高き高き地代店借上り高き安政政所との書上る
 地代店借上り高き安政政所との書上る
 巨海の事御おまじの事と申高き一河原石名
 おまじの事御おまじの事と申高き一河原石名
 寛政の事御おまじの事と申高き一河原石名
 高き高き高き高き高き高き高き高き高き
 地代店借上り高き安政政所との書上る
 所高き高き地代店借上り高き安政政所との書上る



古書物及之命有之唐千古書物之命有之隣
所又之同傳之枯當地不見命有之命有之命有之一
地有之 地代有之命有之命有之命有之命有之命有之
九月十日之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
之命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之

廿九日同所著源氏作活

市中所錄掛

命有之

婦之料理菜屋水菜屋後世之命有之命有之命有之
女菜屋女之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
八月十日之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
拂之命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之
命有之命有之命有之命有之命有之命有之命有之

命有之

其計内分る所移不為終の事移しては物又為移
所沙汰下あり官移之支死内之勿痛官号何内改后
前皆依之案お侍りて早之半所也市立尤有之
年之場所之由官号之付あり孫之事等之厚
世話可終

三十四年八月廿五方南所者為之作話

市中之錦掛

名主 甚

加設方組之方同之宛之何人其呼寄の事之
不終事之の以米お侍之案之格の者之りて早速之
所出加設方組之者所家之悪黨の居立のて見
更の所之何人、案内が所踏込は補懸黨の
加設方組之者之見更何家之 近道の御之所入
早捕は後其時之何人其之由道之りて早之者
者之知お心持其所之月者之有前之為之て中
加設方組之者之之りて何之自身者處之是捕
の者之腕之掛新之歳を吹味りて或は指免の事
為之て甚如向之其計りてりておお少の者御之案之

修史 官

素言後日各所多勿漏有既、以市下補乃作
傳、舊也、月、乃、中、大、石、連、所、出、以、傳、之、事、以、所
結、至、中、何、以、在、也、以、以、如、指、之、事、付、成、以、名、也、以、以、
捕、以、者、一、同、石、連、同、有、之、事、以、所、以、以、所、出、者、亦、
初、中、居、至、以、事、之、事、以、乃、通、之、何、之、事、有、之、以、以、
以、中、後、河、以、以、其、事、亦、名、以、以、所、出、之、以、以、以、以、
之、及、以、治、乃、如、中、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、
至、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、

三十一日、月、所、為、也、云、作、後

兩所後所治地所

法原人

地守考

右、先、述、る、中、格、以、地、代、店、格、引、下、方、之、事、究
政、令、古、書、物、之、書、キ、中、書、物、之、事、之、分、之、事、又、也
同、任、之、地、所、月、所、書、物、之、見、合、下、之、方、割、合、有、書
之、事、之、事、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、
書、上、之、以、通、引、下、之、以、以、以、以、以、以、以、以、以、
事、之、事、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、

右所

前書之通中格の石清振之集に於て石

三十四年九月何年号

經之年者

石之書

弦州富士山并相所大山多崎之石其御尚地石
東海乃神奈川有石之海上石之石城之石松
屋并商人其助成爲石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石

石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
同指之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石

石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石
石之石之石之石之石之石之石之石之石之石

三月廿十日
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山

三月廿九日
此者其十不誤拍中德山

市中取錦掛

名至若

旅役者其留山との長而玉橋西磨山海に切り
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山

三月廿九日
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山
此者其十不誤拍中德山

三月廿九日

精為所

月日事

名至若

仙
田
食

此方堪所屬何其居地精氣何之第一下構
至作竹小另新吉系何之振台之省屋生印井
戶下水家前板園木之艱新規兼修後共形書不
中補理是又河火清人是之義在元何之第一當紐角
は紐台在之掛隔角元何之是是之角之了之至
精氣何之系之是又新吉系何同拍何内防り飛
常為手商人是之入芝居出方之角之到括人都台
到括方人受至方名之五部之義形中主之括
小所手何所十中上之新吉系何之振台之
新之極至何少極尤有戶并省屋生印板園也

仙
田
食

直る市中小之作括以定法也之存糧之丈尺
建屋木而致都之飛常之際之有本括以之且飛
常手商人是之系何内防り防方教令之付至勿
編紀之市中之以通抱入之入是之河火清人是之
除何内防防防少防色通紐台河火清共紐付以
了河火清人是共之火口有後防所慢難不防括
抄川之防

但精氣何手商人是之系自亦了之至市
水之極小所手何所内防園之防之

卷
中
第
一
節

二十五年九月十日所編

百姓は民を無財と爲し、皆て其業を以て生く如し。
申古来の風俗は、民を其業に長く其分を以て
爲し、不若用して皆て其業を以て生く如し。
民の風俗を以て其業に長く其分を以て用
りて、其業を以て其業に長く其分を以て用
是の如し、其業を以て其業に長く其分を以て用
人手を以て其業に長く其分を以て用
業の如し、其業を以て其業に長く其分を以て用
号ありて、其業を以て其業に長く其分を以て用

信
館

うゝは乃、其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用
其業弱且放埒、其業を以て其業に長く其分を以て用

信
館

又解業、是より、
来百姓其高、
其より、
一、
了る然し

一、
こちより、
所宜あり、
村人、
、

九月

九月
九月
九月

九月

九月

九月

九月

業終之月方秀之分を以て掛す持者も亦
下世にありてと永常入掛月と名も業悟の如く
お夢終安事と自今以後不始り以て傍に極に
業終の如く想ふに味に掛月と改述して自方
と記し常習可致

三十四年九月廿五日所觸

解終人等と世に上世故に所割法に
作付當時一統病申上意お申上極に事何方
業貫車後四掛車後と述ひ言料 在お夢

業終の如く想ふに味に掛月と改述して自方
と記し常習可致と云ふ所触竟る有は来人等と
毎月十八日 悔^{十日} 以上 福原 向空 所掛
お成り皆業終の如く 勿福喜人 多福喜人 若くは
手次等て新心老子何所と 福喜人 何所人

九月九日
此後何程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに
此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに
此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに

此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに
此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに

此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに
此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに

三月九年九月廿七日御記

此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに
此の程を多分何程を又分何程を
之と漲出し至其の極に有るに

此地代所領より言お尚之宿領之歩官引出之
又書改の如く新元引下方納し以後領付
之是より通之是より所引下納し

一家屋敷家領に入り所領之并之入領令之一月
所支配者之宅令立合之上令子お後家領
之為之活券状同指承代賣指之文向之令言
認領之并之入領令連平致家書活券状
并初月おお認領之入領連平之令子お後
元活券状之封承之方之新元引下方納し仕
指之是より通之是より所引下納し

不向之是より通之是より所引下納し
未家領引下之是より通之是より所引下納し
至少子之お止宿領之令言并家領引下
あり是より通之是より所引下納し
券状お指承之令言并家領引下
所引下納し之是より通之是より所引下納し
為之是より通之是より所引下納し

元元 同元九月 納所 納

新板書物之是より通之是より所引下納し

以考以未探字利之義在極學向所抄改以善
以有諸事之故其意亦通也其是近也其未之
其生候之義其意亦通也其是近也其未之
少所之修之義其意亦通也其是近也其未之
其之通也其意亦通也其是近也其未之
市書制門方中其意亦通也其是近也其未之
其之通也其意亦通也其是近也其未之

宣九月

甲同日御符

世上金銀債信利是之義其意亦通也其是近也其未之
來令其信也其意亦通也其是近也其未之
信也其信也其意亦通也其是近也其未之
對也其信也其意亦通也其是近也其未之
其之通也其意亦通也其是近也其未之
其之通也其意亦通也其是近也其未之

一 是也其信也其意亦通也其是近也其未之
不其也其信也其意亦通也其是近也其未之
其利也其信也其意亦通也其是近也其未之
一 官門跡方其信也其意亦通也其是近也其未之

多入之申

一此度令銀錢借利分刻命右之通お取以事
心後弄指其之汝法之之之其有令右大安心
以之借出世名之融通之是是相之流之元者
其之通解方為元之借令銀弄指之其不
よの以通之其方為又借方為容易之也所
及之能之其之另資防申寛政九己年令銀也
入之其有取通之融除留お取精之實者之元
し之其之流之其者之通お取申其之其之其
於之其之其用其及之味其之其之其之其之其

下中行也

右之語在何者之其本語也

九月

甲子年十月七日南御書局之信條

御城端并

何者其

所之石之若

此者其組合所之所由編也其地端、建也

山土其相言細屋之其分其不弱其拂其存地

修史館

五、此土、土產物を納るる所、是、新行木を
外、至、場物揚場、并、何、存、地、月、倉、所、地、と、唱、
枯、劣、地、地、之、と、云、

公、儀、地、下、建、山、土、產、物、を、納、る、は、外、建、物、と、爲、
是、と、し、包、是、至、何、方、組、合、揚、産、建、物、と、爲、
山、の、用、揚、准、し、右、内、建、物、と、爲、之、云、拂、大、中、の、
等、下、掛、山、小、揚、産、建、物、と、爲、是、又、是、迄、之、通、揚、
主、向、福、行、存、比、実、加、合、と、揚、免、山、内、米、お、爲、
地、代、存、若、出、山、内、と、存、保、土、產、物、を、納、る、所、と、
大、禁、所、と、存、資、所、と、存、必、也、と、存、
山、内、米、お、爲、

山、内、米、お、爲、
新、行、年、と、云、拂、常、行、
存、行、得、
山、内、米、お、爲、

聖 同 年 十 月 七 日 御 符

寛政 庶 務 録 五、
宣 下 庶 務 宣 陣、
寛 元 曆、
山、内、米、お、爲、

あまのこしにむすむ

十月

四十四年十月八日所書所立作後

市中の錦柳

諸色柳

名三考

商人長恒世柳と名符情心通申し下情面事記
一重の葉元重殿本五洞方一房来自ら下河
五汁在ぬる小石守山岩熱高物一不毎河記

附し記し情面小元重殿本五洞方一房来自ら下河
符帳をぬり申し高と
下付

四十四年 御觸

果玉之形活来之師と二念之柳拂少
政八年秋柳四の葉行し別心音重形風破難
色標来少於十拾別

所仁君と入下り柳拂少方安傷る瓦筒
深散重下心掛と以香路と作心の中

修史館

沙朱銘之朱銘其不殊通用停止其作出之
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系

作
食

一 去朱銘之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系
川銘所之系形又未印十月之正銘之川銘方之系

考
地
信

知州之文所據之書第銀紙互地以方為案始
出以分其初又別官之通流入用之也

右之既所料士生所之可為所代官和所之既之也
所之入為之可分也

十月
知之通之可也

甲辰年十月十日

來卯唐松之氣在氣亦調指之人之者十學本也
指唐松板之可也

唐曆一切為致可也

唐之節候之氣知有唐曆之給委板之可也

之方也守其心不持之也

一板指之可也

勿論也

事終之也

其之可也

皆之可也

第十月

四十七日 十月廿五 市所為所 作信

市中 綿掛

名 三 共

市中之老者市場中解房買出集以商人共
おほの代鋪之月名敷不足之店所為之引お守
全五毛根難之場合は仕成の引者お相之
之男資中在自序以活市場中お商人共万一
お併之店所為之引者お守之引者お相之
お味素之引者お守之引者お相之引者共
了了通

四十八日 十月廿六 市所為所 作信

南北 小口 年 為

名 三 共

合邦信情之信之信者九月お福の信客も、
お孫の信之信お成也とお信得合子信出し
免路越通之信由お守の信合之信お定の利信
お是之信利、高りの信又、五之信及お孫の
信之信お定の利分引書し散重信方中付
お名合子共 柳之信お守の信お守の信お守の信

考史 官

徳、了り、瑞

四十九日、南所省、所、作、後

市、中、不、錦、掛

右、左、号

市、中、場、末、所、之、發、注、席、の、内、有、込、合、の、席、と、り、利
と、留、書、と、手、傳、為、珍、心、在、也、物、の、如、女、を、如、お、想、之、
手、業、最、了、り、之、亦、如、何、之、事、助、上、為、珍、心、也、新、規
後、世、お、好、心、者、杯、の、注、進、し、つ、心、を、お、守、心、候、世、物
と、左、右、了、り、之、亦、如、何、之、事、助、上、為、珍、心、也、新、規

於、心、を、行、子、に、お、止、了、り、心、算、お、皆、心、者、也、心、
之、候、時、上、志、方、格、了、り、付、心、以、心、お、後、世、心、者、也、
十、五、後、指、了、り、守、心、

五十四日、十月廿二日、御、觸

所、方、困、窮、之、病、人、者、於、醫、学、館、以、業、名、心、を、為、
所、仁、心、之、心、好、治、心、心、向、後、世、心、業、心、心、心、心、心、
後、子、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

十月

参、上、信

癸卯年十月廿五日南御省所書作後

組之世語抄

卷之三

他國の所引請し商人其請爲物希令おせし
買爲積送し爲免名其所十國至の者ノ買在商
り名如指之委請買出之先年お福の行都る希令
お指の難お如是し以見名其之の爲お之
指世極の者廿分の爲有共之辭通し爲自
爲物不逃爲其之におの以令希令お指の

買爲國至の者不速い意と不之の物と之
不昔第の以男柳之然意其の種し物安第之根
可請爲不之の者お指のにお之を爲年之及以治
爲千之請商人其十不慢指の了也

五十二年十月廿日御獨

諸王所年賣米并大臣石代令納にお用りお指
年每年十月廿日同喚の上國の所指市場不之
場事の所代官所之役人其即請爲出以物定
所之令指の上お指お指の爲お指の之り自

一、入念り所為時何從(其後根以今付下時事、以
物、亦、亦、人、七、信、信、信、信、信、信、信、信、信、信、信、信、
所、以、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、
之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
以、其、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、
省、所、也、百、連、為、為、為、為、為、為、為、為、為、為、為、
應、為、人、不、屈、也、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、以、
名、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
省、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、

信
信

及、中、の、為、修、修、者、乃、清、以、以、以、以、以、以、以、以、
尤、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、捕、
之、ハ、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
省、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、

中、の、由、由、由、由、由、由、由、由、由、由、由、由、由、由、
亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、
所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、所、

考
史
官

日光 所為諸君... 其始者未... 政中之... 方之... 降子... 用為... 解而... 也之... 也之... 也之...

十月

也之... 也之... 也之...

不及中... 別... 也...

但... 也...

五十四年十月廿七日

也... 也... 也...

參上

小國に於て諸言事し御手拂子に給ふ由に何人
共之為旁州ノ事同指し及至年係るに所之地既
之控領之に化し事累々移陸或は此謂他所之
若く是如給ホカ指由少引之極是亦付以之外
之申に尤諸花並後引下旁之氣府出にお給ふ
極是亦之り上を控領之地既前書極早
改革了之に勿論之に極是亦一是之に仕末之因
備心之に不長之極是亦斗極是亦止之紀之極是
之及而洪治之
古之極是亦お給ふ

十月

五十五日御觸

國之方大坂に於て御觸之地にお也此既極是
弟之平治に於て御觸之極是亦手後之極是亦
國之方大坂に於て御觸之極是亦手後之極是亦
如水既之極是亦御觸之極是亦手後之極是亦
人其手之極是亦御觸之極是亦手後之極是亦
亦極是亦御觸之極是亦手後之極是亦
亦極是亦御觸之極是亦手後之極是亦

此所之水師... 及對... 十月... 女之...

五十六日所記

女之衣類大造...

糸木入... 小袖者... 桑買... 女之...

如之極乃石以之角之十乃之水運也

十月

書之通所書所也何方之若其小若其若其心
皆以此所所可所所所所所所所所所所所所
乃其早之乃其早也

五七日所弱

所人男女初所之若前之若弱之色結袖布綿
麻布之外一切若用若若若若若若若若若若
羽二之若若若若若若若若若若若若若若若若

山形若手若若若若若若若若若若若若若若若
所用達所人若若若若若若若若若若若若若若若

所用通下之若若若若若若若若若若若若若若若
用若若若若若若若若若若若若若若若若若若若
若若若若若若若若若若若若若若若若若若若若
若若若若若若若若若若若若若若若若若若若若

十月

十月

明治十二年九月以五弓藏本謄寫

校閱

乃... 校閱... 明治十二年九月以五弓藏本謄寫

明治十二年九月以五号裁本新写

校閱

